

# 日本の主な火山活動

平成 16 年（2004 年）10 月の主な火山活動は次のとおりである。

## 【噴火した火山】

- ・ 浅間山 : 10 日に小規模な噴火が発生し、時々ごく小規模な噴火が発生した。
- ・ 薩摩硫黄島 : 従来からの山頂噴火が継続したが、比較的静穏な火山活動であった。
- ・ 諏訪之瀬島 : 従来からの山頂噴火が継続したが、比較的静穏な火山活動であった。

## 【活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化のあった火山】

- ・ 雌阿寒岳 : ポンマチネシリ 96 - 1 火口の高温状態が続いている。
- ・ 十勝岳 : 噴煙活動が活発で、62 - 2 火口の高温状態が続いている。
- ・ 樽前山 : A 火口及び B 噴気孔群の高温状態が続いている。
- ・ 三宅島 : 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2002 年秋以降、日量 3 千～1 万トン程度で概ね横ばい傾向が続いている。
- ・ 伊豆鳥島 : 12 日に変色水が確認された。
- ・ 西之島 : 12 日に変色水が確認された。
- ・ 福徳岡ノ場 : 10 日、12 日及び 13 日に変色水が、13 日に白い浮遊物が確認された。
- ・ 阿蘇山 : 土砂噴出は発生しなかったが、噴湯現象が時々観測され、浅部の熱的な活動が依然活発であった。
- ・ 霧島山 : 御鉢火口の噴気活動は依然やや活発な状態が続いている。

以下、各々の火山の主な活動について解説する。図表その他において、噴火した火山を、活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化のあった火山を、その他記事を掲載した火山を、火山活動度レベルを等の丸付き数字で表記する。

また、末尾の資料として、期間中に発表した火山情報の一覧表、10 月 26 日に開催された第 99 回火山噴火予知連絡会コメント及び統一見解を掲載する。



図 1 今回記事を掲載した火山

火山名	平成15年		平成16年(2004年)										
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
浅間山	ハ	ハ											
伊豆大島	ハ	ハ											
阿蘇山	ハ	ハ											
雲仙岳	ハ	ハ											
桜島	ハ	ハ											
雌阿寒岳													
十勝岳													
樽前山													
吾妻山													
草津白根山													
富士山													
箱根山													
伊豆東部火山群													
三宅島													
伊豆鳥島													
西之島													
噴火浅根													
硫黄島													
福徳岡ノ場													
霧島山													
薩摩硫黄島													
口永良部島													
諏訪之瀬島													
硫黄島													

( : 気象庁職員が山頂付近で作業を行った際に、山頂付近に限定されると思われる微弱な降灰を確認した。これまでも同様の現象はあったものと思われる。)

表 1 過去 1 年間に活動があった火山等

## 各火山の活動解説

火山名の後の〔噴火・爆発・噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等〕は、掲載した理由となった火山現象を示す。

### 雌阿寒岳 [熱]

10 月 1 日に実施した調査観測では、赤外放射温度計<sup>1)</sup>による観測でポンマチネシリ 96 - 1 火口の最高温度は約 340 と高温であった（測定距離 50m、前回（6 月 6 日実施）は約 350 ）。

噴煙の状況、地震の発生状況及び地殻変動の状況等に特に変化はなかった。

1) 赤外放射温度計及び赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する測器であり、一方、熱伝対温度計はセンサーを直接熱源に当てて温度を測定する測器である。前者は熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、大気その他の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

### 十勝岳 [噴煙・熱]

62-2 火口は、噴煙活動の活発な状態が続き、高温の状態が続いていたと推定される。遠望カメラによる観測では、噴煙は白色で高さは概ね火口縁上 200m で推移した。

地震の発生状況、地殻変動の状況等に特に変化はなかった。

### 樽前山 [熱]

10 月 1 日、14 日及び 25 日に実施した調査観測では、赤外放射温度計<sup>1)</sup>による観測で A 火口の最高温度は約 600～620 （前回（5 月 26 日実施）は約 620 ） 1 日及び 15 日に実施した調査観測では、熱伝対温度計<sup>1)</sup>による観測で B 噴気孔群の最高温度は両日とも約 430 （前回（5 月 26 日実施）は約 410 ）と高温であった。

噴煙の状況、地震の発生状況及び地殻変動の状況等に特に変化はなかった。

浅間山 [噴火・空振・火山礫<sup>れき</sup>・降灰・火映・火山ガス・熱・地震・微動・地殻変動]

10 日に小規模な噴火が発生し、時々ごく小規模な噴火が発生した。火山活動度レベルは 3（山頂で小～中噴火の可能性）であった。

10 月 10 日 23 時 10 分に小規模な噴火が発生した。噴煙の状況は悪天のため不明であった。この噴火に伴い軽井沢測候所（山頂火口の南約 8 km）に設置した空振計で 19 パスカル<sup>2)</sup>の空振を観測した。これは 9 月に発生した 3 回の中爆発に伴う空振（発生順に 205、72、30 パスカル<sup>2)</sup>）に次ぐ強さであった。噴石の飛散状況は雲のため不明であったが、風下側の火口の北北東 4 km 付近で最大 2 cm 程度の火山礫<sup>れき</sup>が確認されたほか、北北東方向の群馬県嬬恋村及び長野原町で降灰があった（東京大学地震研究所及び地元防災関係機関の調査による）。

また、1 日（2 回）、16 日、18 日（2 回）、19 日及び 28 日にごく小規模な噴火が発生した（表 2）。

山頂火口からは、噴火時を除き、白色噴煙が連続的に噴出し、最高で火口縁上 500m まで上がった。

6 日夜及び 7 日夕方に軽井沢測候所から肉眼で弱い火映が観測されたほか、1～2 日、7～8 日、16 日、21 日～24 日には高感度カメラ<sup>3)</sup>でごく弱い火映が観測された。

1 日及び 28 日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり約 1,500～3,000 トンと多い状態であった（前期間は約 900～3,100 トン）。

10 月 1 日に行った上空からの火口観測<sup>4)</sup>によると、火口底の高さは 9 月 1 日の噴火前よりもやや上昇し、山頂からの深さは約 190m であった（噴火前は約 250m）。また、火口底北東側に直径約 70m、深さ約 40m のくぼみが確認され、その中心部には赤熱部が見られた。これは、9 月 16 日及び 18 日に国土地理院と気象庁により火口底に確認されたドーム状の溶岩の一部が、9 月 23 日及び 29 日の中爆発等の噴火で吹き飛ばされた結果生じたものと考えられる。赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測では火口底の最高温度は 517 と高温であった。

表 2 浅間山 2004 年 10 月に発生した噴火

噴火日時	規模	噴煙の状況 色・高さ・流向	空振(注)		その他の特記事項
			O点	A点	
1日 11時 18分	ごく小規模	乳白・200m・北	-	-	
1日 17時 12分	ごく小規模	灰白・200m・北東	-	-	
10日 23時 10分	小規模	悪天のため不明	19Pa	33Pa	山頂火口の北北東 4 km 付近で最大 2 cm 程度の火山礫。山頂火口の北北東方向の群馬県嬲恋村及び長野原町で降灰。
16日 12時 06分	ごく小規模	灰白・500m・南東	-	-	
18日 07時 36分	ごく小規模	乳白・500m・西	-	-	
18日 10時 17分	ごく小規模	乳白・500m・北	-	0.14Pa	
19日 14時 46分	ごく小規模	灰白・300m・南東	-	0.13Pa	19日 15時 30分～16時に軽井沢測候所で降灰(0.6g/m <sup>2</sup> )を観測。御代田町役場にも降灰。
28日 04時 24分	ごく小規模	灰白・400m・南東	-	-	軽井沢町に微量の降灰。噴火直前にわずかな傾斜変化を観測。

(注) O点は山頂火口の南約 8 km、A点は同南約 4 km に設置した空振計の記録による。

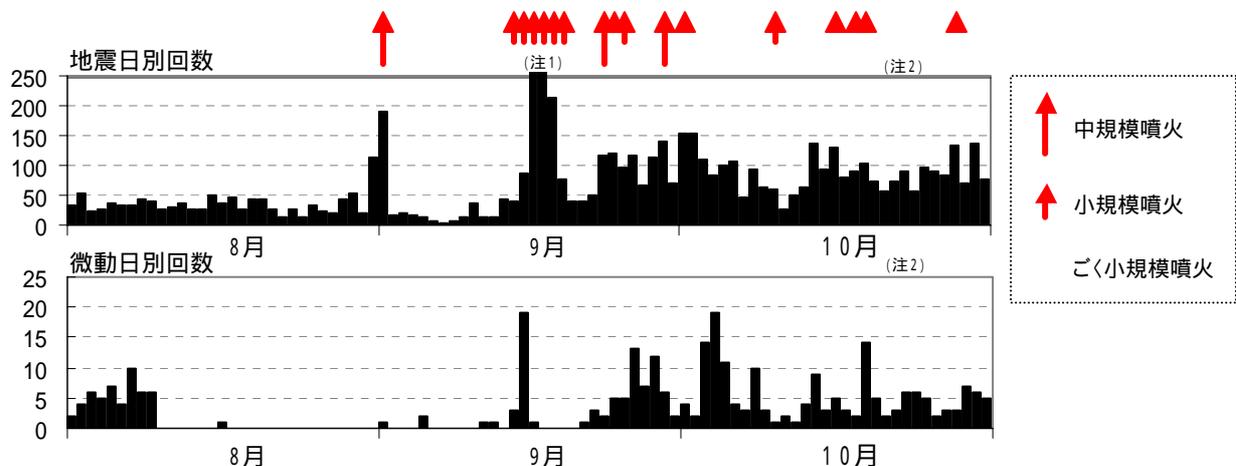
また、28日に行った上空からの火口観測<sup>4)</sup>によると、噴煙のため火口底全体の様子は確認できなかったが、火口底は中央に向かって低くなっており、全体的に10月1日の観測時より低くなっていると推定された。白色の噴気が火口底全体から活発に噴出しており、噴気孔の周りには硫黄昇華物とみられる黄色い付着物が確認された。赤外線映像装置<sup>1)</sup>による観測では火口内の最高温度は375で、10月1日(517)に比べ低下していた。

地震活動は、微小な地震の多い状態が続き、1日あたり26～155回で推移した。震源の位置は火口直下の浅い場所で、特段の変化はなかった。火山性微動の発生回数は、上旬に10回を超える日

が時々あるなど(最多は4日の19回)多い状態が続き、中下旬は10回を超えることはほとんどなくなったが、期間中やや多い状態で推移した(図2)。

10日の小規模な噴火の前には特に顕著な傾斜変化は観測されなかったが、28日のごく小規模な噴火発生の際には、噴火の約30分前からわずかな山上がりの傾斜変化<sup>6)</sup>がF点及びA点の傾斜計<sup>5)</sup>で観測された。なお、6日、F点の傾斜計<sup>5)</sup>で、9月23日の中爆発前にみられたのと同程度の山上がりの傾斜変化<sup>6)</sup>が観測されたが、噴火は発生しなかった。

山頂～軽井沢測候所間の距離を測定し山頂部の地形変化を観測している光波測距観測では、今



(注1) 9月16日の地震回数は1406回、17日は同624回。

(注2) 10月23日は新潟県中越地方の地震により18～23時の計数不能。

図 2 浅間山 2004 年 8～10 月の噴火、地震及び微動の日別発生状況

年 8 月中旬から 9 月下旬まで山頂部が膨らむような傾向が継続し、以後停滞した。8 月中旬から 9 月下旬の変化は火口浅部へのマグマ供給が継続していたことを示すものと推測される。

G P S による地殻変動観測では特に顕著な変化はなかった。

- 2) 空振はおおむね 10Pa（パスカル）を超えると身体に感じられるようになり、数百 Pa ではガラスが割れるなどの被害を生じる可能性がある。
- 3) 気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が山麓に設置。
- 4) 長野県警（1 日）及び長野県（28 日）の協力により気象庁と東京大学地震研究所が共同で実施。
- 5) F 点の傾斜計は山頂の北北東約 2.5km、A 点の傾斜計は同南南東約 3.8km に設置。
- 6) 山上がりの傾斜変化は、山頂直下が膨らんだことを示すと考えられる。

### 伊豆大島

**火山活動度レベルは 1（静穏な火山活動）であった。**

10 月 17 日 04 時 59 分に島の北西部を震源とする地震が発生し伊豆大島元町で震度 1 を観測したが、期間を通じて地震活動は落ち着いた状態が続いた。噴煙活動も静穏で地殻変動等のその他の観測データにも異常な変化はなく、火山活動は落ち着いた状態が続いた。

### 三宅島 [噴煙・火山ガス・熱・地震]

**多量の二酸化硫黄の放出が続いた。**

噴煙活動は引き続き活発で、白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出した。期間中の噴煙の高さの最高は火口縁上 1,000m であった（前期間の最高は火口縁上 1,000m）。

上空からの観測<sup>7)</sup>では、噴煙活動に大きな変化は見られなかったが、山頂火口内の状況は噴煙のため不明であった。火山ガスの観測では、二酸化硫黄の放出量は日量 2,300～4,900 トンで依然多い状態であった（図 3）。赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測では、火口内の最高温度は 164℃ で依然として高い状態にあった（前回 8 月 10 日の観測では 190℃）。また、全磁力の連続観測では特に変化は見られず、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

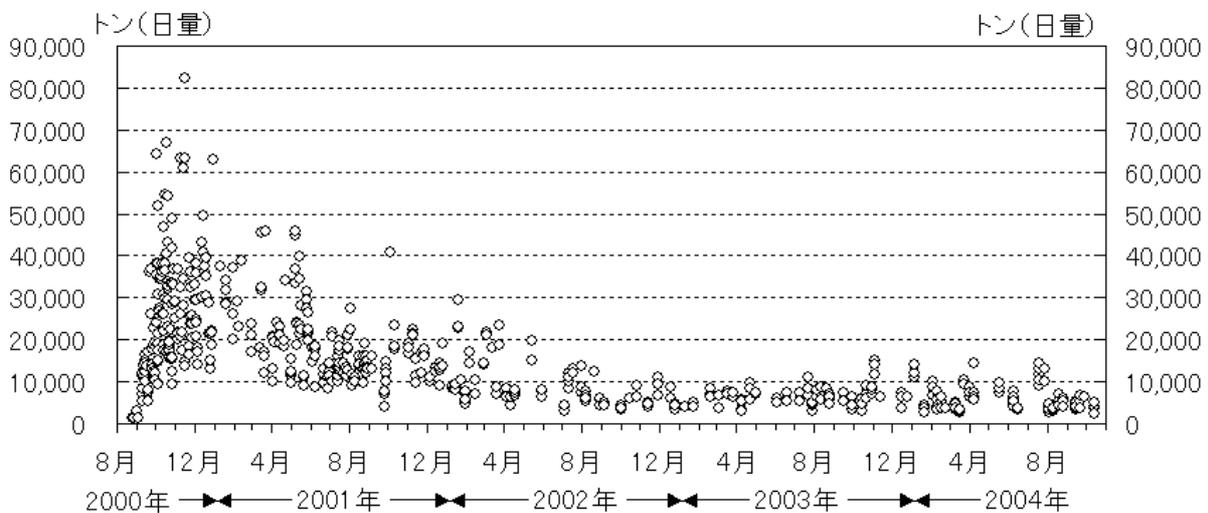
山頂直下では、振幅の小さいやや低周波地震の活動が 2003 年 4 月以降活発な状態で推移しており、今期間も月回数 783 回とやや多い状態であった（前期間は 431 回）。

火山性連続微動の振幅は最近 1 年半以上大きな変化は見られていない。また、G P S 観測によると、三宅島のゆっくりした収縮を示す地殻変動が続いている。

7) 10 月 14 日に警視庁の協力により気象庁が実施。

### 伊豆鳥島 [変色水]

海上保安庁が 10 月 12 日に行った上空からの観



**図 3 三宅島 二酸化硫黄の放出量(日量に換算)(2000 年 8 月～2004 年 10 月)**  
2002 年秋以降は日量 3 千～1 万トン程度でほぼ横ばいとなっている。

測によると、島の北岸の兵庫浦から船見岬にかけての沖合約 300m までの海域に黄緑色の変色水が確認された。また、島の南岸の三ツ石から燕崎にかけての沖合約 300m までの海域に黄緑色の変色水が確認された。伊豆鳥島の周辺海域において変色水が確認されたのは昨年 11 月 6 日の海上保安庁の観測以来である。

### 西之島 [変色水]

海上保安庁が 10 月 12 日に行った上空からの観測によると、島の南西岸から西岸にかけての沖合約 300m までの海域に黄緑色の変色水が確認された。また、島の東側には半径約 400m のごく薄い黄緑色の変色水が確認された。西之島の周辺海域ではたびたび変色水が確認されており、最近では今年 3 月 22 日の海上保安庁の観測により確認されている。

### 福德岡ノ場 [変色水]

10 月 10 日に海上自衛隊が行った上空からの観測によると、福德岡ノ場の海域から北東に幅約 100m、長さ約 2,500m の薄い緑色の変色水が確認された。12～14 日に海上保安庁が行った上空からの観測によると、12 日には同海域から北北東に幅約 300m、長さ約 2,000m の黄緑色の変色水が、13 日には南東に幅約 300m、長さ約 2,000m の黄緑色の変色水が確認された。また、13 日の観測では、変色水に沿って幅約 50m、長さ約 500m の範囲に白色の浮遊物が筋状に点在しているのが確認された。14 日の観測では変色水は確認されなかった。

### 阿蘇山 [噴湯現象・熱・微動・地震]

**火山活動度レベルは 2（やや活発な火山活動）であった。**

中岳第一火口では、土砂噴出は観測されなかったが、湯だまり<sup>8)</sup>の中央、西及び南西側で弱い噴湯現象が観測された。湯だまりの状況は、期間の初めの色が灰緑色で量が約 8 割から、10 月 7 日には色が乳緑色、12 日には色が灰緑色で量が約 5 割、15 日には色が灰白色で量が約 4 割と変化した。18 日～21 日の降水の影響で、21 日には

再び色が灰緑色で湯量が約 8 割になった。湯だまりの表面温度は 64～74、火口壁の最高温度は 127～169 で、前期間に比べ大きな変化はなかった（前期間はそれぞれ 61～71 及び 138～187）。

噴煙の状況は、今期間を通じて白色で、噴煙高度の最高は火口縁上 500m で通常と比べ変化はなかった。

火山性微動は、連続微動が 10 日から 11 日にかけて発生し、継続時間の短い微動が期間中 31 回発生した（前期間は期間の初めから 9 月 29 日まで連続微動が継続した）。孤立型微動の発生回数は 2,164 回であった（前期間は 1,587 回）。また、B 型地震が増加し、344 回発生した（前期間は 79 回）。

その他、A 型地震の発生は少なく、GPS による地殻変動観測では火山活動に起因する変化は見られなかった。

8) 湯だまり：活動静穏期中の中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約 50～60 の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起こり始めることが知られている。

### 雲仙岳

**火山活動度レベルは 1（静穏な火山活動）であった。**

地震活動、噴煙活動ともに静穏で、地殻変動等その他の観測データにも異常な変化はなく、火山活動は落ち着いた状態が続いた。

### 霧島山 [噴気]

御鉢火口内で 2003 年 12 月に確認された噴気孔からの噴気活動は、消長を繰り返しながらも依然としてやや活発で、監視カメラで火口縁上 50～300m まで上がる噴気が時々観測された。

新燃岳付近及び御鉢付近の地震活動は低調で、火山性微動は発生しなかった。

### 桜島

**火山活動度レベルは 2（比較的静穏な噴火活動）であった。**

期間中、噴火は発生しなかった（前期間もなし）。

噴煙活動も低調で、鹿児島地方気象台（南岳の西南西約 11km）で降灰は観測されなかった（前期間もなし）。

#### **薩摩硫黄島 [噴火・降灰・微動]**

10 月 1 日に噴火があり、13 時 10 分に監視カメラ（硫黄岳の西南西約 3 km に設置）で降灰を観測した。噴煙の状況は悪天のため不明であった。また、鹿児島中央警察署硫黄島駐在所によると、4 日、5 日及び 25 日に集落（硫黄岳の西南西約 3 km）で降灰があった。

26 日に連続的な火山性微動が発生し、26 日及び 28 日には継続時間の短い火山性微動がやや多く発生した。

#### **諏訪之瀬島 [爆発・噴火・降灰・微動]**

爆発的噴火が 10 月 23 日に 4 回発生し、23 日朝に集落（御岳の南南西約 4 km）で多量の降灰があった<sup>9)</sup>。爆発的噴火が発生したのは今年 7 月 5 日以来である。

また、5 日に少量の火山灰を含む噴煙が火口縁上 700m の高さには上がっているのが確認され<sup>9)</sup>、28 日には監視カメラで灰白色の噴煙が高さ火口縁上 400m まで上がって西に流れるのが観測された。5 日及び 28 日の噴火では集落に降灰はなかった<sup>9)</sup>。

火山性連続微動が、22～24 日、26 日及び 28 日に発生した。

13～18 日に実施した調査観測および 16 日に海上保安庁の協力により実施した上空からの観測によると、今年 2 月に御岳火口内に新しく確認された火孔は火山灰や土砂で埋もれ、御岳火口内の旧来の火孔から上がる少量の噴煙と青白ガスが確認された。

9) 降灰及び 5 日の噴煙の情報は十島村役場諏訪之瀬島出張所による。

## 資料 1 2004 年 10 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類と号数	発表日時	概 要
浅間山	火山観測情報第 66 号	1 日 10:00	30 日 15 時～1 日 09 時の活動状況(噴火はなし、地震、微動共にやや多い、夜間微弱な火映を観測)。レベルは 3。
	火山観測情報第 67 号	1 日 16:00	1 日 00 時～15 時の活動状況(11 時 18 分にごく小規模な噴火発生、地震やや多い)。上空からの火口観測結果。レベルは 3。
	火山観測情報第 68 号	2 日 10:00	1 日 15 時～2 日 09 時の活動状況(1 日 17 時 12 分にごく小規模な噴火発生、地震、微動共にやや多い、夜間微弱な火映を観測)。レベルは 3。
	火山観測情報第 69 号	2 日 16:00	2 日 00 時～15 時の活動状況(噴火はなし、地震やや多い)。レベルは 3。
	火山観測情報第 70 号	3 日 10:00	当日 00 時～15 時もしくは前日 15 時～当時 09 時の活動状況(噴火はなし、地震・微動やや多い)。レベルは 3。
	火山観測情報第 71 号	3 日 16:00	
	火山観測情報第 72 号	4 日 10:00	
	火山観測情報第 73 号	4 日 16:00	
	火山観測情報第 74 号	5 日 10:00	
	火山観測情報第 75 号	5 日 16:00	
	火山観測情報第 76 号	6 日 09:40	5 日 15 時～6 日 09 時の活動状況(噴火はなし、08 時頃から地震やや増加、07 時頃から山上がりのやや大きな傾斜変動あり、未明に微弱な火映を観測)。レベルは 3。
	火山観測情報第 77 号	6 日 13:45	6 日 00～13 時の活動状況(噴火はなし、11 時頃から傾斜変動が元に戻り地震も減少)。レベルは 3。
	火山観測情報第 78 号	6 日 16:00	6 日 00～15 時の活動状況(噴火はなし、地震、微動共にやや多い)。レベルは 3。
	火山観測情報第 79 号	7 日 10:00	6 日 15 時～7 日 09 時の活動状況(噴火はなし、地震、微動やや多い、断続的に微弱な火映を観測)。レベルは 3。
	火山観測情報第 80 号	7 日 16:00	7 日 00 時～15 時の活動状況(噴火はなし)。レベルは 3。
	火山観測情報第 81 号	8 日 10:00	7 日 15 時～8 日 09 時の活動状況(噴火はなし、火映を観測)。レベルは 3。
	火山観測情報第 82 号	8 日 16:00	当日 00 時～15 時もしくは前日 15 時～当時 09 時の活動状況(噴火はなし)。レベルは 3。
	火山観測情報第 83 号	9 日 10:00	
	火山観測情報第 84 号	9 日 16:00	
	火山観測情報第 85 号	10 日 10:00	
	火山観測情報第 86 号	10 日 16:00	
	火山観測情報第 87 号	11 日 10:00	10 日 15 時～11 日 09 時の活動状況(10 日 23 時 10 分に小規模噴火発生、嬬恋村、長野原町で降灰、山頂の北北東 4 km 付近で火山レキを確認)。レベルは 3。
	火山観測情報第 88 号	11 日 16:00	当日 00 時～15 時もしくは前日 15 時～当時 09 時の活動状況(噴火はなし)。レベルは 3。
	火山観測情報第 89 号	12 日 10:00	
	火山観測情報第 90 号	12 日 16:00	
	火山観測情報第 91 号	13 日 10:00	
	火山観測情報第 92 号	13 日 16:00	
火山観測情報第 93 号	14 日 10:00		
火山観測情報第 94 号	14 日 16:00	当日 00 時～15 時もしくは前日 15 時～当日 09 時の活動状況(噴火はなし)。レベルは 3。	
火山観測情報第 95 号	15 日 10:00		
火山観測情報第 96 号	15 日 16:00		
火山観測情報第 97 号	16 日 10:00	15 日 15 時～16 日 09 時の活動状況(噴火はなし、微弱な火映を観測)。レベルは 3。	

火山名	情報の種類と号数	発表日時	概 要
浅間山	火山観測情報第 98 号	16 日 16:00	16 日 00 時～15 時の活動状況(12 時 06 分にごく小規模な噴火発生)。レベルは 3。
	火山観測情報第 99 号	17 日 10:00	16 日 15 時～17 日 09 時の活動状況(噴火はなし、地震やや多い)。レベルは 3。
	火山観測情報第 100 号	17 日 16:00	17 日 00 時～15 時の活動状況(噴火はなし)。レベルは 3。
	火山観測情報第 101 号	18 日 10:00	17 日 15 時～18 日 09 時の活動状況(07 時 36 分にごく小規模な噴火発生、地震やや多い)。レベルは 3。
	火山観測情報第 102 号	18 日 16:15	18 日 00 時～15 時の活動状況(10 時 17 分にごく小規模な噴火発生)。レベルは 3。
	火山観測情報第 103 号	19 日 10:00	18 日 15 時～19 日 09 時の活動状況(噴火はなし、地震やや多い)。レベルは 3。
	火山観測情報第 104 号	19 日 16:00	19 日 00 時～15 時の活動状況(14 時 46 分にごく小規模な噴火発生)。レベルは 3。
	火山観測情報第 105 号	20 日 10:00	19 日 15 時～20 日 09 時の活動状況(噴火はなし、地震やや多い)。レベルは 3。
	火山観測情報第 106 号	20 日 16:00	当日 00 時～15 時もしくは前日 15 時～当日 09 時の活動状況(噴火はなし)。レベルは 3。
	火山観測情報第 107 号	21 日 10:00	
	火山観測情報第 108 号	21 日 16:00	
	火山観測情報第 109 号	22 日 10:00	21 日 15 時～22 日 09 時の活動状況(噴火はなし、微弱な火映を観測)。レベルは 3。
	火山観測情報第 110 号	22 日 16:00	当日 00 時～15 時もしくは前日 15 時～当日 09 時の活動状況(噴火はなし)。レベルは 3。
	火山観測情報第 111 号	23 日 10:00	
	火山観測情報第 112 号	23 日 16:00	
	火山観測情報第 113 号	24 日 10:00	23 日 15 時～24 日 09 時の活動状況(噴火はなし、微弱な火映を観測)。レベルは 3。
	火山観測情報第 114 号	24 日 16:00	当日 00 時～15 時もしくは前日 15 時～当日 09 時の活動状況(噴火はなし)。レベルは 3。
	火山観測情報第 115 号	25 日 10:00	
	火山観測情報第 116 号	25 日 16:00	
	火山観測情報第 117 号	26 日 10:00	
	火山観測情報第 118 号	26 日 16:00	
	火山観測情報第 119 号	26 日 17:30	
	火山観測情報第 120 号	27 日 10:00	当日 00 時～15 時もしくは前日 15 時～当日 09 時の活動状況(噴火はなし)。レベルは 3。
	火山観測情報第 121 号	27 日 16:00	
	火山観測情報第 122 号	28 日 10:30	27 日 15 時～28 日 09 時の活動状況(04 時 24 分にごく小規模な噴火発生)。レベルは 3。
	火山観測情報第 123 号	28 日 16:00	28 日 00 時～15 時の活動状況(09 時以降噴火はなし)。上空からの火口観測結果。レベルは 3。
	火山観測情報第 124 号	29 日 10:00	28 日 15 時～29 日 09 時の活動状況(噴火はなし、地震回数やや多い)。レベルは 3。
火山観測情報第 125 号	29 日 16:00	29 日 00 時～15 時の活動状況(噴火はなし)。28 日実施の二酸化硫黄放出量観測結果。30 日以降、情報の定時発表を 1 日 1 回(16 時)に変更。レベルは 3。	
火山観測情報第 126 号	30 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況(噴火はなし、地震やや多い)。レベルは 3。	
火山観測情報第 127 号	31 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況(噴火はなし、微動やや多い)。レベルは 3。	

火山名	情報の種類と号数	発表日時	概 要
三宅島	火山観測情報第 547 号 (1 日 2 回発表)	1 日 09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。
	火山観測情報第 609 号	31 日 16:30	
	火山観測情報第 599 号	26 日 17:30	第 99 回火山噴火予知連絡会における三宅島の火山活動に関する検討結果。
阿蘇山	火山観測情報第 48 号	1 日 11:10	火山活動は引き続きやや活発(湯だまり量約 8 割、噴湯現象あり、土砂噴出なし、連続微動 29 日 17 時頃から振幅減少)。レベルは 2。
	火山観測情報第 49 号	8 日 11:00	火山活動は引き続きやや活発(湯だまりの高温状態継続、湯量約 8 割)。レベルは 2。
	火山観測情報第 50 号	15 日 11:00	火山活動は引き続きやや活発(湯だまりの高温状態継続、噴湯現象あり、湯量約 4 割に減少)。レベルは 2。
	火山観測情報第 51 号	22 日 11:00	火山活動は引き続きやや活発(湯だまりの高温状態継続、噴湯現象あり、降雨により湯量が約 8 割に増加)。レベルは 2。
	火山観測情報第 52 号	29 日 11:00	火山活動は引き続きやや活発(湯だまりの高温状態継続、噴湯現象あり)。レベルは 2。
諏訪之瀬島	火山観測情報第 9 号	23 日 09:40	火山活動やや活発(爆発的噴火 4 回発生、集落で降灰)。
	火山観測情報第 10 号	25 日 11:30	火山活動は収まってきている。

## 資料 2 第 99 回火山噴火予知連絡会コメント及び 統一見解

平成 16 年 10 月 26 日、第 99 回火山噴火予知連絡会が開催され、同連絡会は、最近の全国の火山活動について委員及び関係機関からの報告をもとに取りまとめ、終了後、気象庁から以下のとおり発表した。

### 第 99 回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動について

浅間山では、9 月 1 日の爆発的噴火以降も時折噴火が発生するなど火山活動は活発な状態が続いています。別紙のとおり統一見解を発表しました。

三宅島の火山活動には大きな変化はありません。依然として山頂火口からは多量の二酸化硫黄を含む火山ガスが放出されています。現在程度の火山ガスの放出は当分継続すると考えられます。阿蘇山では、1 月 14 日の規模の大きな土砂噴出発生後、火山性地震、孤立型微動とも減少しましたが、火口底の湯だまり内では小規模な土砂噴出が 9 月下旬まで発生するなど火山活動はやや活発な状態が続いています。今後、火山活動が活発化すれば噴石を火口外へ放出するような噴火が発生する可能性もあります。

全国の火山活動状況は以下のとおりです。

#### 1. 北海道地方

##### 1) 雌阿寒岳

- ・ポンマチネシリ 96 - 1 火口は 300 以上の高温が続いており、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

##### 2) 十勝岳

- ・2 月と 4 月にごく少量の火山灰噴出があった 62 - 2 火口は、噴煙活動が活発で高温が続いており、火山活動は引き続きやや活発な状態です。今後も火山灰混じりの有色噴煙が見られる可能性があります。

##### 3) 樽前山

- ・A 火口および B 噴気孔群では 400 以上の高温が続いており、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

##### 4) 有珠山

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

##### 5) 北海道駒ヶ岳

- ・噴気活動や地震活動は低いレベルで経過しています。
- ・わずかな山体膨張は引き続き観測され、火口近傍では温度や地殻変動にわずかな変化が認められます。また、平成 8 年から平成 12 年までの間に小噴火が繰り返し発生しており昭和 4 年大噴火や昭和 17 年中噴火の前の状況に類似しています。しばらくは活動推移を見守る必要があります。

## 2. 東北地方

##### 1) 岩手山

- ・東岩手山のやや深いところを震源とする低周波地震は引き続き発生していますが、4 月以降少なくなっています。
- ・黒倉山山頂の噴気の高さは低下傾向にあります。
- ・黒倉山周辺で継続していた局所的な地殻変動も停止しました。
- ・以上のように、火山活動は静穏に経過しています。

##### 2) 秋田駒ヶ岳

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

##### 3) 吾妻山

- ・7 月から 8 月上旬にかけて地震回数がやや増加しましたが、火山活動は平成 16 年 1 月をピークに低下傾向が続いています。

##### 4) 安達太良山

- ・地震活動は静穏に経過し、沼ノ平火口付近の噴気活動は平成 15 年前半と比較して低下しており、火山活動は静穏に経過しています。

##### 5) 磐梯山

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

### 3. 関東・中部地方

#### 1) 那須岳

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

#### 2) 草津白根山

- ・噴気温度は高い状態が続いていますが、地震は少なく火山活動は静穏に経過しています。

#### 3) 浅間山【火山活動度レベル3 (山頂火口で小から中噴火発生)】

- ・別紙のとおり統一見解を発表しました。

#### 4) 御嶽山

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

#### 5) 富士山

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

#### 6) 伊豆東部火山群

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

#### 7) 伊豆大島【火山活動度レベル1 (静穏な火山活動)】

- ・西部、中央部、東部で地震活動が一時的に活発化しました。
- ・島全体が膨張する傾向は継続しています。
- ・長期的には、地震活動、島の膨張傾向に顕著な変化はなく、火山活動は静穏に経過しています。

#### 8) 三宅島

- ・6月の統一見解以降、火山活動に大きな変化はありません。詳細は以下のとおりです。
- ・二酸化硫黄の放出量は最近約2年間、1日あたり3千～1万トン程度で概ね横ばいです。放熱率は平成14年夏以降、緩やかに減少していますが、火山ガスの組成や火口内の温度にはほとんど変化はありません。全磁力観測からは、山頂火口直下の温度は平成14年以降長期的に低下していると推定されます。
- ・山麓に降灰をもたらすような噴火は平成14年11月24日以降観測されていません。

- ・地震活動は依然活発な状態が続いていますが、やや減少傾向にあります。マグマの脱ガスによると推定される島の収縮は最近2年間は緩慢になってきていますが、現在も継続しています。

- ・以上のように、火山活動は、全体として最近約2年間大きな変化はなく、現段階で火山活動が活発化する兆候はみられません。ただし、これまで同様、小規模な火山灰の噴出などの可能性はあると考えられます。また、現在程度の火山ガスの放出は当分継続すると考えられます。今後も局所的に高い二酸化硫黄濃度が観測されることもありますので、風下に当たる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも引き続き注意が必要です。

#### 9) 硫黄島

- ・地震活動は比較的静穏ですが、地殻変動は続いています。

### 4. 九州地方

#### 1) 九重山

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

#### 2) 阿蘇山【火山活動度レベル2 (やや活発な火山活動)】

- ・火口底の湯だまり量は降水による一時的な増加はあるものの、その後は再び減少するなど熱的活動は引き続きやや活発な状態です。
- ・1月14日以降、規模の大きな土砂噴出は発生していませんが、湯だまり内の小規模な土砂噴出は9月下旬まで続きました。
- ・火山性地震、孤立型微動とも3月以降減少しましたが、火山性連続微動が3月以降発生するようになり、5月中旬以降はほぼ連続して発生しています。

- ・以上のように、火山活動はやや活発な状態が続いています。今後、火山活動が活発化すれば噴石を火口外へ放出するような噴火の可能性もあります。火口周辺では注意が必要です。

#### 3) 雲仙岳【火山活動度レベル1 (静穏な火山活動)】

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

#### 4) 霧島山

- ・新燃岳付近の火山活動は、静穏に経過しています。
- ・御鉢火口では時折火口縁を越える噴気が観測されるなど、火山活動はやや活発な状態が続いています。火口内および南側火口縁では注意が必要です。

#### 5) 桜島【火山活動度レベル 2 (比較的静穏な噴火活動)】

- ・桜島南岳では今期間も噴火が発生しましたが、桜島の活動としては比較的静穏な状態で経過しています。
- ・火山性地震、火山性微動は少ない状態で経過しています。そのなかで A 型地震 はやや多く、今後火山活動が活発になる可能性があります。

火山性地震には、通常の構造性地震と同じような P 波、S 波が明瞭で高周波の波動からなる A 型地震と、位相が不明瞭な低周波の B 型地震があります。桜島の A 型地震は、マグマ等の貫入に伴い地殻が破壊されるために発生していると考えられ、B 型地震はマグマ内の火山ガスの発泡等によって火道内で発生する地震とされています。過去の活動において、A 型地震が多発したり、震源が浅部に移動した後、B 型地震が増加し噴火活動が活発になった事例があります。

#### 6) 薩摩硫黄島

- ・噴火は時折発生しており、火山活動はやや活発な状態が続いています。

#### 7) 口永良部島

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

#### 8) 諏訪之瀬島

- ・6 月 7 日～9 日に 97 回の爆発的噴火が発生し、それ以降も時折噴火が発生しており、火山活動はやや活発な状態が続いています。

### 5. 海底火山

- ・福徳岡ノ場では、変色水が度々観測されてい

平成 16 年 10 月 26 日  
気 象 庁

噴煙活動、地震活動、地殻変動等を注意深く監視して  
いく必要があります。

### 浅間山の火山活動に関する 火山噴火予知連絡会統一見解

浅間山は、今後も爆発的噴火を繰り返す可能性があります。引き続き火山活動の状態を注意深く監視していく必要があります。

9月1日に爆発的噴火が発生した浅間山では、9月中旬以降、山頂噴火を繰り返しています。9月16日には山頂火口内に溶岩が出現していることが確認され、10月7日には約600の最高温度が観測されました。

傾斜観測では、爆発的噴火の数時間～1日前から山頂直下がわずかに膨張するような傾斜変化が観測されることがあります。また、重力観測でも、噴火前に重力値の変動が観測されています。

火山性地震や微動の活動は継続しています。火山ガスの放出量も多く、1日あたり約1000～3000トンの二酸化硫黄放出量が継続的に観測されています。

光波測距による山頂近傍の地殻変動観測では、8月中旬から山頂付近がわずかに膨らむ変化が見られましたが、10月以降は停滞しています。周辺部のGPSによる地殻変動観測によれば、9月以降わずかに山体深部が収縮する変化が観測されています。

以上のように、現在のところ、深部からの大量のマグマ注入を示す変化は観測されておらず、大規模な噴火が切迫していることを示す観測データはありません。しかしながら、浅部での活動は続いており、今後もこれまでのような爆発的噴火を繰り返す可能性があります。山腹では、これまで同様大きな噴石に注意が必要です。特に、風下では、噴石・火山レキ・火山灰等に注意が必要です。また、爆発時の空振にも注意が必要です。引き続き、火口底の状況、